

迦葉山三世天山見亮大和尚開創 五百年の古寺 利根沼田横道三十三観音霊場 十八番札所

石尊山 観音寺

〒378-0074 群馬県沼田市下発知町332

T E L . 0 2 7 8 - 2 3 - 9 4 1 0

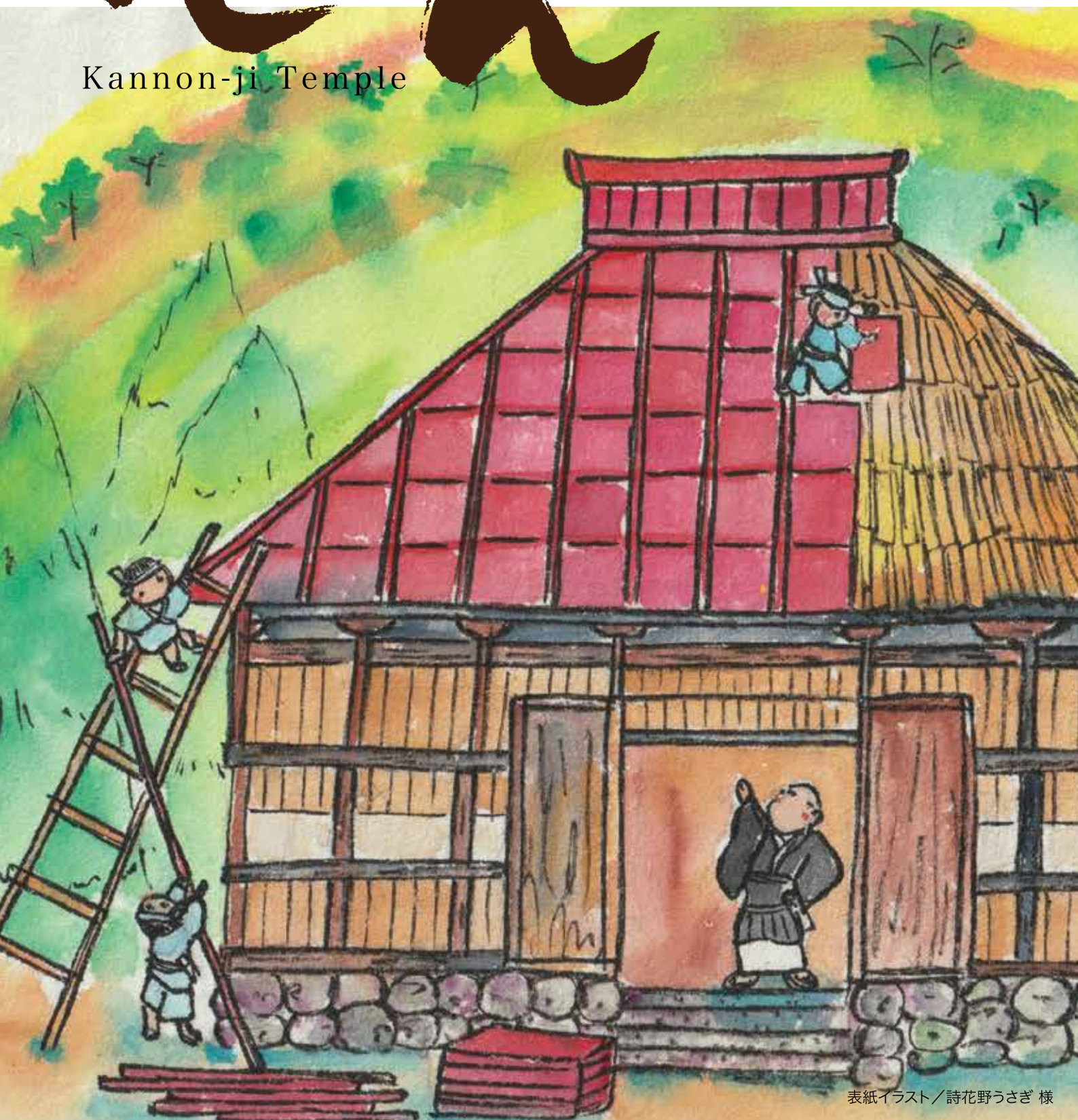
E-mail : info@kan-nonji.com

U R L : http://www.kan-nonji.com

— 第 25 号 —

2023年1月1日 発行

Kannon-ji Temple



ごあいさつ

住職 いかるぎ こうけん
五十木 晃 健

コロナ禍が落ち着きつつある日々の中、観音寺の住職になってから十三年目を迎えました。

住職として最初にした仕事は、草刈りや木の伐採といった境内整備。一人で黙々と作業する私の姿を見て、戸神山の登山客の方々がお声掛けくださったことをきっかけに、徐々に境内に人が集まるようになりました。

やがて、行事を開催すると本堂から溢れるほどの参加者が来てくださったり、御朱印を求めて毎月県外から足を運ぶ方々もいたり——孤独な作業の日々が、たくさんの縁と結ばれた今の観音寺へと繋がったと思うと感慨深いです。

そんな住職一年目の日々を思い出しながら、これからの寺

づくりについて考えていたとき、樹木葬を通して新たなご縁と結ばれました。

お一人は、お花が趣味の方。本堂に生けるための花を持ってきてくださったり、感染症対策で使えないままだった手水舎を花で飾ってくださいたりしました。もう一人は水彩画が趣味の方で、池田村の月への信仰を描いた手作り絵本を贈ってくださいました。

お二方とも、お寺に特別思い入れを持ったのは観音寺が初めてだったか。その理由を伺うと、「他にはない落ち着く空間だから」とおっしゃっていました。

話は変わりますが、昔から観音寺に足を運んでくださっている方々は歳を重ねて、段々と一同に集まるのが難しく

ドローン撮影／山口邦夫 様





▲三十三観音像



▲阿弥陀如来と獅子



▲羅漢像

なつてきました。それは私自身も同じです。近頃は法事などで不在にしていることが多く、皆様とお会いできる機会が減つてしまい歯痒い思いをしていたのです。

だからこそ観音寺を、足を運んだ人それぞれが自分のペースで、日常から少しだけ離れた時間を過ごせる場所になりたい——そう考えるようになりました。

そこで初心に帰り、あらためて境内整備に力を入れること

にしたのです。

昨年は檀家さんにご協力いただき、夏には水芭蕉を、秋には秋桜を一面に植えました。蕾が綻んで観音寺に一気に彩りが加わる過程を見るたびに、あらためて「一人きりの力では見れなかつた景色だ」と深い感謝の念が湧きあがります。

また、あわせて石仏も新たに設置。贈つていただいた手作り絵本の内容に合わせて、可愛らしいウサギの石像も加わりました。月と縁が深いウサ

ギを、新たな観音寺のモチーフの一つとして育てていきたいと考えています。

とはいえ、これからも、ホッとするお寺にしたいという思いは変わりません。「花」や「うさぎ」といった新たな彩りを取り入れることで、一人で物思いに耽りたい方から大勢で楽しみたい方まで、一人ひとりが、自分らしい過ごし方ができる寺を目指してまいります。

御礼申し上げます

詩花野うさぎ様制作

「月読月への信仰観音寺物語」

アーティストの詩花野うさぎ様が、観音寺をモチーフにした絵物語を制作していただきました。

掲載されているイラストは水彩画で非常に可愛らしく、どこか懐かしい雰囲気を感じ

られます。物語は、詩花野様が観音寺に訪れた際、色々とお話したなかでイメージされたようです。

観音寺は「月にいちばん近い寺」を謳っておりですので、非常にあつた物語です。



石長様より

涅槃像を寄贈

沼田市の石材会社「石長」様より「涅槃像」を寄贈していただきました。

境内の桜の木の下に設置させていただきました。ありがとうございました。



芝崎様より

刈払い機を寄贈

元総代の芝崎滋様より背負い式の刈払い機を寄贈していただきました。境内は斜面も多く背負い式の刈り払い機が活躍し、大変助かります。ありがとうございます。



山下様より

洋風風鈴を寄贈

アーティストの山下工美様より洋風風鈴を寄贈していただきました。本堂の入り口に飾らせていただきました。風がふくと良い音色を奏でてくれます。ありがとうございました。



故山縣様より書道用筆を寄贈

日典ラサ前橋様からのご紹介で、書道家の故山縣静枝様のご家族より「書道用筆」のセットを寄贈していただきました。職業柄、書は身近な存在でもあります。良い筆を使つて書く字は気持ち良くのびやかなものです。そうやって書かれた字には心がこもります。寄贈していただいた筆に負けないような良い字を書けるよう精進したいと思います。



意地の張り合い親子の雪解け

日典ラサ中山様のご紹介で、鈴木身江子様より、鈴木様の母故齊藤八千代様の日本画を奉納していただきました。ここにご紹介させて頂きます。

2022年3月に亡くなった母は日本画を描く人で、家には沢山の作品が保管されており、母は住職から戒名を頂き、お弟子さんになりました。お寺に母の作品を置いて頂けたら安心して修行が出来、母も喜んでくれるかなと思い、お寺に母の絵を寄進致しました。観音寺の冬は雪が積もるとの事で、雪に関する作品『遅春』を選びました。その際に住職から寺報に載せる記事の依頼を受けたことがきっかけとなり、母への想いに変化が生まれたので、そのことを書きたいと思います。

母が私によく言っていたことは、「中途半端は大嫌いーやるなら何事も一生懸命やりなさい。」そんな母は有言実行。趣味で始めた着付けは講師免許を取得、習字も六段、日本画も数々の賞を受賞するまでやり

込みました。いずれも私が親元を離れてから始めた習い事です。私はというと、何事もほどほどに。良く言えば欲が無い、悪く言えば自分に甘いタイプ。そんな私が資格取得の専門学校に就職し、とある国家資格の講師になりました。講義は約一年かけて合格へと導いていきませんが、とても厳しい試験で、合格者は上位10%前後、皆必死で仕事終わりの疲れた身体にムチを打ち授業に出席しています。私はまだ二〇代前半の小娘、受講生の殆どは私より年上、信頼関係を築くのも難しいなか、ほどほどに、などと言っ

てはいられず責任重大ー仕事にのめり込んでいきました。ある時、母からお彼岸に帰省するかの確認電話があり、休みの日は講義予習に時間を費やしたいから帰省しない。と話したら、内容が飛躍し、「ママが

危篤になっても身江ちゃんは帰省ないのか？」と責められ、中途半端は大嫌いのフレーズが頭に浮かび、「今はとにかく仕事が大切。多くの受講生の人生が掛かっているのに中途半端な事は出来ないから、その日に授業が入っていたら帰省しないと思う。」と言っしまいました。母は憤慨し、終には「ママが亡くなる時は身江ちゃんに知らせない！」と電話を切られてしまいました。思えば母との関係がぎこちなくなつたのもこの頃からでした。私は母にあまり自分の意見を言わず、本音で話し合う事をしておりませんでした。幼少期は掴みどころの無い子供だった様で、扱いづらい子だ！と言われたこともありました。母の言いなりだった私が要望に応えず、ショックだったのだでしょう。その翌年に祖母が亡くなる時、案の定連絡は来ず、知らされたのは葬儀の日程。それからというもの、表面的には仲良くしても、どこかお互いに意地を張り合っていました。

母の最期、病院から連絡が

あり急いで向かうも間に合わず、母はひとりで亡くなってしまいました。晩年は認知症の症状がかなり進行し、あの時の事を覚えていたか定かではありませんが、親の死に目に会えなかった事がずっと頭の中でグルグルしていました。後悔の念か、四十九日以降、毎日かかさずお線香をあげてひとこと挨拶。これが私の日常になりました。

そのタイミングでの記事依頼。母に関するありとあらゆる事を書き出し、それを読み、を繰り返していたら、ふと、嫌な事も沢山言われたけれど、母はいつも本音で私に接してくれていて、私の方が母に対して心を開放せず壁を作っていたんだなあ…と今更ながら気付きました。本当は母がどう思っていたのか、もう知る術はないけれど。蟬りのあつた母との関係もお寺に寄進した『遅春』の絵の様にほんの少し雪が解けてきたと思います。早く春が訪れることを願って、これから毎日お線香をあげ続けていきます。これも偏に、住職のご縁によるものだと思います。ありがとうございました。



奉納していただいた故齊藤八千代様の日本画

御朱印に出会って

全国的に有名になった当山の御朱印も二〇二二年十一月を持って終了いたしました。全国の御朱印ファンに支えられてきた御朱印は様々な人々に愛されました。心から感謝いたします。

「観音力」や「達磨大師の墨絵」に代表される観音寺の御朱印は、多くの書籍にも取り上げられ、全国的にも有名になりました。

コロナ禍の前までは連日のように数多くの人々が来山してくださりました。時には境内に数十人の列ができるほどで、御朱印の人気は物凄いものでした。また、多くの御朱印帳も制作し、中でも漫画家の「あらぬけいち」さんとのコラボ御朱印は転売をする人も現れるほどの人気となりました。

しかし、コロナ禍とともに来山する人も激減してしまいました。今まで御朱印を書いていた時間を境内整備に勤しむ内に、「自分のあるべき姿はここにある」との思いが湧き上がり、これを機にもう一度境内整

備を行う、観音寺の住職になった頃の初心に戻る決心をいたしました。

今まで観音寺の御朱印をご愛顧いただいた方々には感謝しかありません。ここまで御朱印の山寺と知れ渡ったのは皆様のおかげです。この誌面をお借りして重ねてお礼申し上げます。ありがとうございます。また、受付をしてくださいました菊地舞依子さん、今までありがとうございます。



戸神山登山

池田小学校児童来山

五月二十三日(月)に池田小学校の三、四年生児童が戸神山登山の途中に来山してくださいました。

当日は薄曇りの天気でしたが、子供たちの元気な声が山寺に響きわたり、ようやく活気が戻ってきた感じがして感概深いです。コロナ禍の前までは境内にいつも笑い声が響いていたと思うと、ようやくいつもの観音寺が戻ってきたようで嬉しいものです。



うすねワクワクスクール

子供達に元気を貰う

十月二十五日(土)の午前中に「うすねワクワクスクール」の子供たちが来山してくださいました。

本堂での法話や坐禅体験をしていただき、子供たちの真剣な眼差しに身の引き締まる思いでした。

久しぶりに子供たちの元気な声が本堂内に響き渡り、こちらが元気をもらえたようでした。観音寺には子供たちの笑顔が似合います。



令和四年

書き、初め大会

毎年恒例の「大書き初め」を池田小学校で行いました。体育館の中には子供たちがの元気な声が響き渡り、一筆一筆思いを込めて書きあげます。

一月十七日(月)に池田小学校で毎年恒例の「大書き初め」を行いました。

六年生の児童一人ひとりが一筆ずつ書きあげる文字は「希望の朝」。



コロナ禍の世の中が少しずつではありますが、良い方向に向かっていると感じます。しかし、まだまだ以前のようにとは行きません。

一筆一筆の思いが天に通じ、子供たちの未来が、より良くなる事を願っています。



▲池田小学校大書き初め

月刊住職に掲載

興山舎より発行されている「月刊住職」の二月号に八ページにもわたり掲載していただきました。大変に名誉な事です。

取材を受けながら自分の半生を省みると、今まで様々な事があつたと今更ながら思い返しました。自分の経営していた会社の倒産。修行の後、観音寺の住職として境内整備に汗水流していた頃。地元の方や檀信徒の皆さんとの交流。御朱印が人気となり、日本全国から御朱印を求めて来山して下さった事など、本当にいろいろな事がありました。今の自分があるのも観音寺に関わる皆様あつての事なのだと改めて感謝の思いでいっぱいです。



ねこの御朱印本に掲載

株式会社Gakken様より「関東版ねこの御朱印&お守りめぐり週末開運にゃんさんぽ」に掲載していただきました。有名な「地球の歩き方」の御朱印シリーズです。

観音寺の御朱印は二〇二二年十一月十五日(火)を持って終了いたしました。その最後の年にも御朱印の本に取り上げていただくという有終の美を飾る事ができました。これというのも観音寺の御朱印をご愛顧していただいた方々のおかげだと改めて感謝し、また、感動を覚ええました。

この誌面をお借りして重ねて御礼申し上げます。ありがとうございます。



新年度役員のご紹介

総代長 阿部 三郎(下発知)
 総代 木樽 保夫(戸 神)
 総代 松井 敦夫(下発知)
 世話人 尾身 広志(下発知)
 宮下 君子(下発知)
 金子 陽一(戸 神)
 吉澤 民枝(戸 神)
 會計 金子民之介(戸 神)
 書記 角田二郎(下発知)

令和四年 ご寄付・ご奉仕お礼

境内草むしり・本堂清掃

障害福祉サービス事業所ア

ルモニ殿

絵画奉納 鈴木身江子殿

イラスト一式奉納

詩花野うさぎ殿

石仏奉納 石 長 殿

刈払い機寄付 芝崎 滋殿

書道用筆一式寄付

故山縣 静枝殿

洋風風鈴奉納 山下 工美殿

ドローン撮影 山口 邦夫殿

手水舎・本堂飾り付け

鈴木 杏奈殿

詩花野うさぎ殿

お借り致しました

道路拡張土地 佐藤 富二殿
 案内板・のぼり旗設置場所 阿部 直次殿
 松井 順子殿 松井 隆殿
 松井 和幸殿 小林 康子殿
 沼北自動車殿 関上 和寿殿
 松井 康治殿 下発 知町
 樹木葬用道路用地 松井 里美殿

その他、地域・檀信徒の皆様にはご協力頂きありがとうございました。紙上より厚く御礼申し上げます。



観音寺年間予定

一月三日……………年頭廻礼
 五月八日……………花まつり
 八月上旬……………境内清掃
 八月十六日……………お盆施食会
 中秋の名月前後…観月音

観音寺境内がさらに広く

観音寺境内の南側の土地を購入し整地をはじめました。快く譲って下さった皆様に感謝申し上げます。

佐藤 富二様 一七一〇平米
 松井 則雄様 六六七平米
 阿部 三郎様 三四三平米
 角田 二郎様 七八六平米

水芭蕉を植栽し コスモスも華やかに咲く

観音寺境内入り口近くに水芭蕉を、南側の道路沿いにコスモスを、総代と世話人の方々が植栽してくださいました。初秋の境内が華やかに彩られ、明るい雰囲気になりました。また、今後の水芭蕉も楽しみです。ありがとうございました。



撮影スポットとして活用

成孝院住職堀口秀樹様が観音寺境内を撮影スポットとして活用していただきました。写真集「夏がささやく観音寺」「シン・観音寺」の二冊の写真集を自主制作していただき、普段見慣れた境内がこんなにも綺麗なかと改めて感動いたしました。



手水舎・本堂が華やかに

鈴木杏奈様と詩花野うさぎ様が、境内の手水舎と本堂を季節毎に飾り付けをしてくださいました。訪れる人々からとても評判が良く嬉しい限りです。ありがとうございました。

